

WWFジャパン スクール・パリ協定

COP22（マラケシュ）での 主要論点

WWFジャパン
気候変動・エネルギーグループ長
山岸 尚之

2016年10月26日（水）



マラケシュでの論点

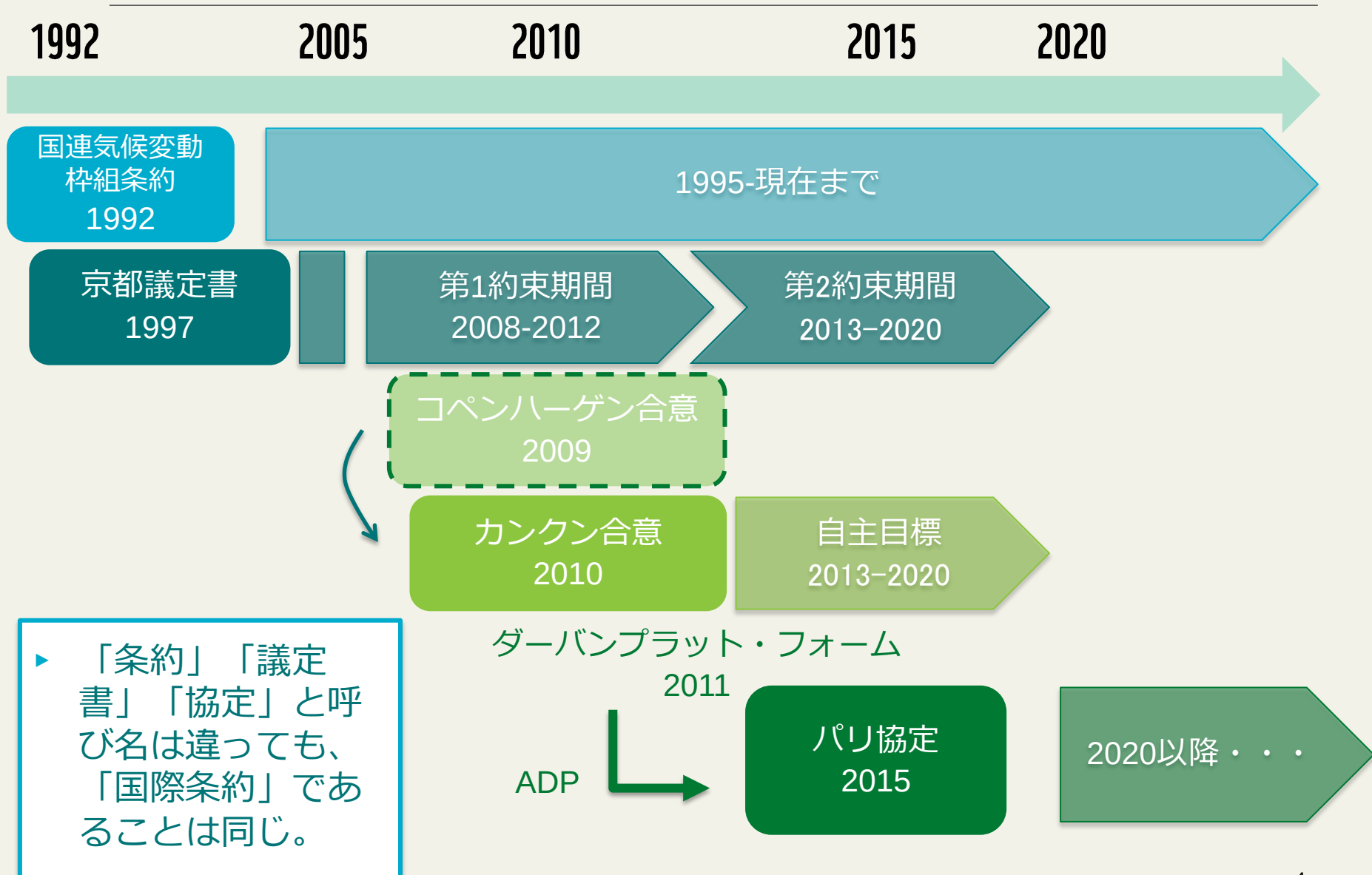
1. ルールブック作成
2. 「2020年より前」の野心の引き上げ
3. 「2018年の促進的対話」の盛り上げ準備

1. パリ協定の「ルールブック」

- 実施と同時に細目を決めていく



UNFCCC→京都議定書→パリ協定



「ルールブック」？

国連気候変動枠組条約（1992）

京都議定書（1997）

パリ協定（2015）



CMP1で正式には採択



マラケシュ合意（2001）
※京都議定書のルールブック

？？合意（XXXX）
※パリ協定のルールブック

京都メカニズム
森林吸収源
遵守
途上国関連（資金等）

（何がメインとなるか未定）
NDC関連ルール
グローバル・ストックテイク
透明性枠組み
実施と遵守 等々

パリ協定の全体像

気温上昇を1.5℃/2℃未満に抑える世界

段階的な改善
(2025・2030年
以降も視野に)

緩和

温室効果ガス
排出量削減
今世紀後半
実質ゼロ

森林
メカ

適応

気候変動影
響
の軽減対応

損失と被害
発生被害へ
の救済等

NDC (国別目標)

各国の排出量削減目標
+ 適応・資金・技術・キャパシティ・ビルディング

資金

技術開発・移転

キャパシティ・ビルディング
(人材育成等)

国連外での取り組み (企業・自治体・NGO) の取り込み

5年ごとの
見直し
世界全体
での進捗
確認

「透明
性」
枠組み

ルール作成の全体像（１）

(I)NDC	技術
パリ協定3条／COP21決定P12～21	パリ協定10条／COP21決定P65～70
緩和／NDC	キャパシティ・ビルディング
パリ協定4条／COP21決定P22～32	パリ協定11条／COP21決定P71～81
森林	教育他
パリ協定5条	パリ協定12条／COP21決定P82～83
メカニズム	透明性枠組み
パリ協定6条／COP21決定P35～40	パリ協定13条／COP21決定P84～98
適応	グローバル・ストックテイク
パリ協定7条／COP21決定P41～46	パリ協定14条／COP21決定P99～101
損失と被害	実施と遵守
パリ協定8条／COP21決定P47～51	パリ協定15条／COP21決定P102～103
資金	2020年前の野心引き上げ
パリ協定9条／COP21決定52～64	COP21決定P105～132

ルール作成の全体像（２）（※別紙参照）



United Nations
Climate Change Secretariat

Progress tracker¹

Work programme resulting from the relevant requests contained in decision 1/CP.21

(Information available as at 14/10/2016)

Color Code			
PA Art. 4 and Dec. 1/CP.21, §§12 – 32 and §35	PA Art. 7 and Dec. 1/CP.21, §§41 – 46	PA Art. 13 Dec. 1/CP.21; §§84 – 98	Dec. 1/CP.21, §§105 – 132
PA Art. 4.15 Dec. 1/CP.21, §§33 & 34	PA Art. 8 Dec. 1/CP.21; §§47 – 51	PA Art. 14 Dec. 1/CP.21; §§99 – 101	Dec. 1/CP.21, §§133 – 136
PA Art. 6 Dec. 1/CP.21, §§36 – 40	PA Arts. 9 – 12 and Dec. 1/CP.21, §§43 & 46 and §§52 – 83	PA Art. 15 Dec. 1/CP.21; §§102 & 103	

Background information, including on the approach to this progress tracker can be found [here](#).

Mandate	Body/Actor	Timeline	Status	Next steps
*mandates with progress updates in this version of the progress tracker				
§14: Continue to publish the INDCs communicated by Parties on the UNFCCC website	Secretariat	Ongoing	Ongoing	Not applicable/available (N/A)
§15: Provide support for the preparation and communication of the INDCs of Parties that may need such support	Developed countries; Operating entities of the FM and any other organizations	Ongoing	Special event on support for NDCs held at SB44: event details	To be announced (TBA)
§19: Update the INDC synthesis report so as to cover all the information in the INDCs communicated by Parties pursuant to decision 1/CP.20 by 4 April 2016 and to make it available by 2 May 2016	Secretariat	2 May 2016	Completed	
§20: Convene a facilitative dialogue among Parties in 2018 to take stock of the collective efforts of Parties in relation to progress towards the long-term goal referred to in Article 4.1 of the Agreement and to inform the preparation of NDCs pursuant to Article 4.8 of the Agreement	COP	2018	To be convened in 2018	TBA

¹On 5 October 2016, the threshold for entry into force of the Paris Agreement was achieved. Therefore, the Paris Agreement will enter into force on [4 November 2016](#) and the first session of the Conference of the Parties serving as the meeting of the Parties to the Agreement ([CMA 1](#)) will be held in Marrakech in conjunction with COP 22 and CMP 12. The progress tracker will be updated, as relevant, in line with arrangements associated with the convening of CMA 1.

- ▶ パリ協定自身およびCOP21決定の中で、「〇〇までに、ガイダンスを決める」などの決定が出されているものがある。

APAアジェンダ／シナリオノートから見る今回の議論

議題項目	議題の中身
項目3	緩和に関するガイダンス（特徴、情報、アカウンティング）
項目4	適応報告に関するガイダンス
項目5	透明性フレームワークのルール
項目6	グローバル・ストックテイク
項目7	実施促進と遵守促進のルール
項目8	その他のルール（CMAのやり方を含む）

- ▶ 上記6つの議題項目（agenda item）それぞれに対して、2名ずつのファシリテーターが当てられる。
- ▶ 項目8については、APA議長2名が自ら行う。

論点の事例：NDC・緩和に関するガイダンス

	パリ協定&COP21決定 で決まっていること	今後決まる かもしれないこと
特徴 (features)	それぞれの国が決める (nationally determined)	- 条件無しの部分を必須とするか - 目標期間は5年で固定するか
情報 (information)	- 明確さ、透明性、理解を重視 - 以下を盛り込むこと：基準となる年等に関する情報、対象期間、実施期間、範囲、計画過程、前提・方法論（森林等含む）、公平世・野心に関する考え	- 目標の形式に応じた詳細 - BAUやGDP比の場合はそれぞれの詳細 - 森林等の扱い - クレジットの扱い
算定 (accounting)	- 環境十全性、透明性、正確さ、網羅性、比較可能性、一貫性および二重カウントの回避を推進 - 既存ルールへの考慮	- 目標達成にカウントしてよいものの詳細化 - 二重カウント回避の具体的手段

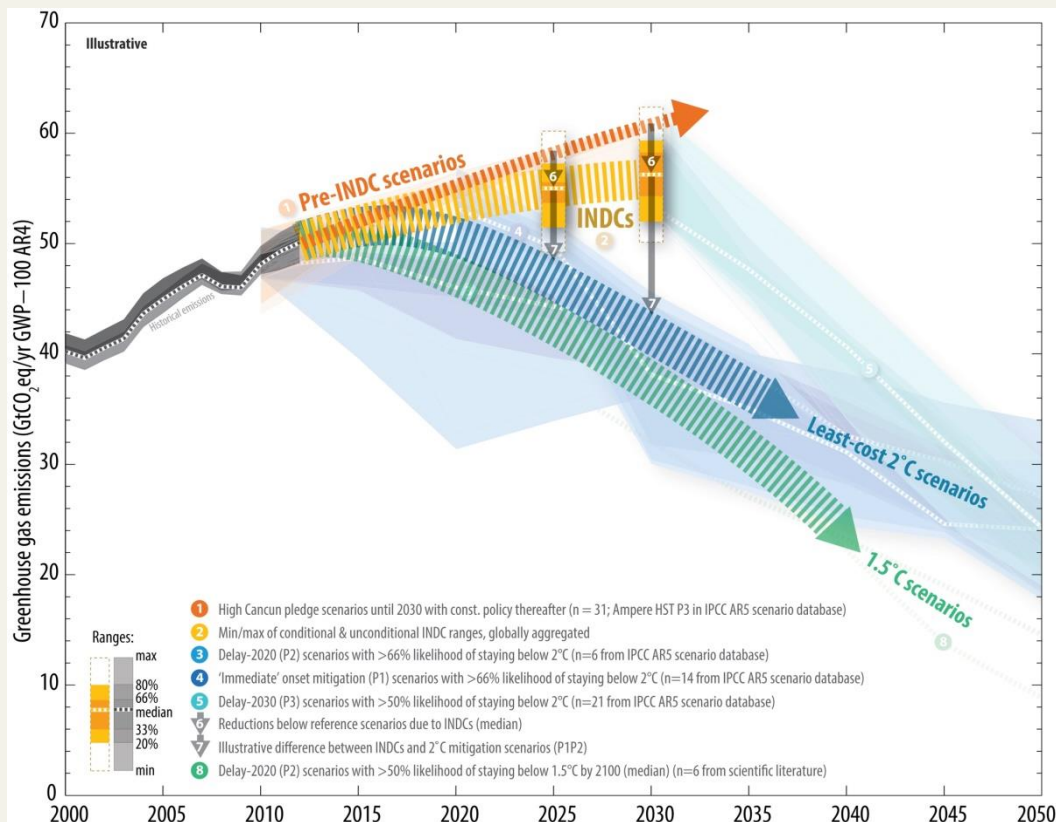


どんな目標でなければいけないのかを実質的に決める

2. 「2018年 促進的対話」

- 単なるギャップの再確認で終わらせないために

目指している所と現状



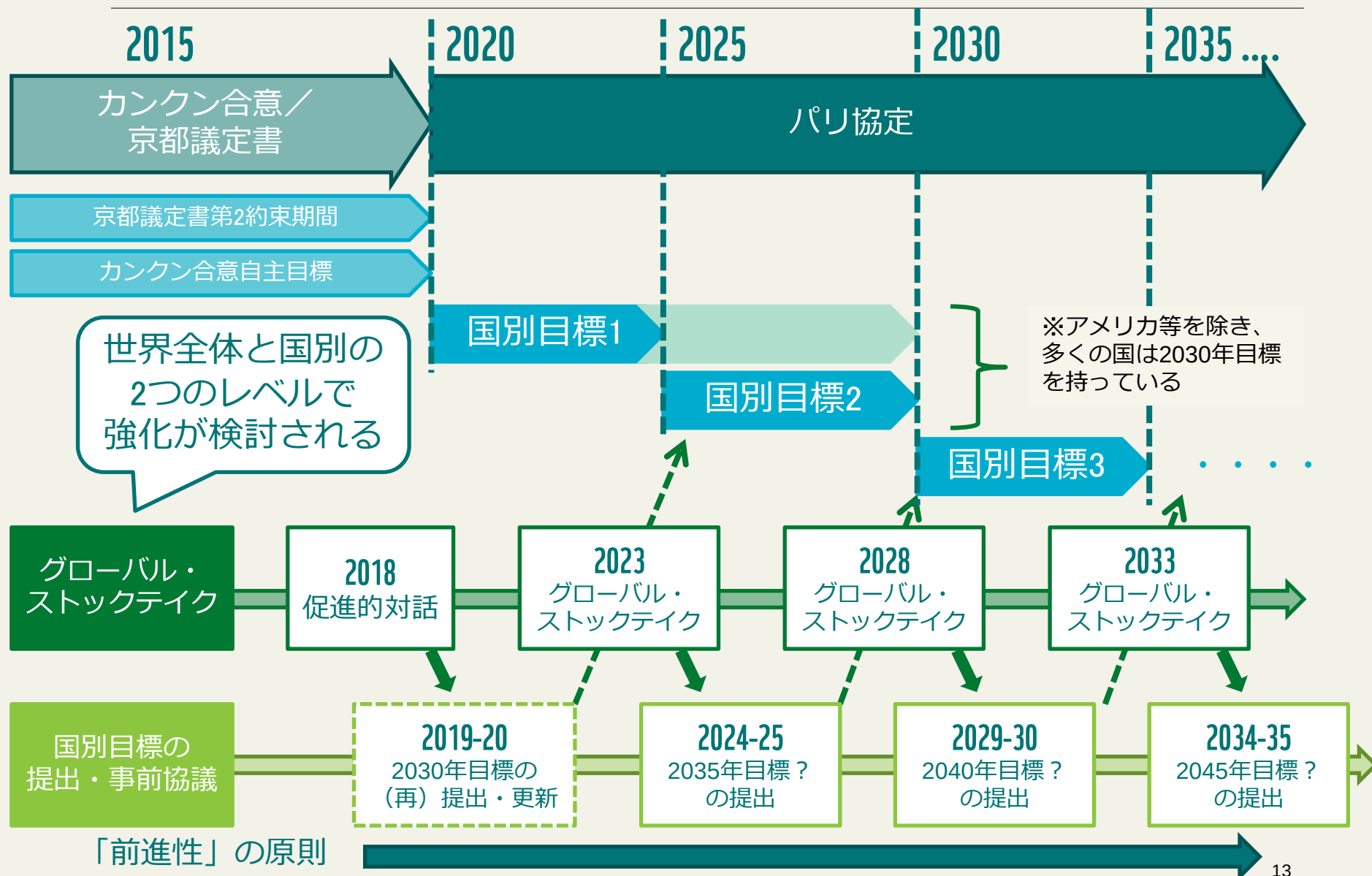
2030年時点での INDC実施後の排出量と 各シナリオとの差

INDCなし	↑33億トン
総INDC	562億トン
2°Cに必要	↓152億トン
1.5°Cに必要	↓226億トン

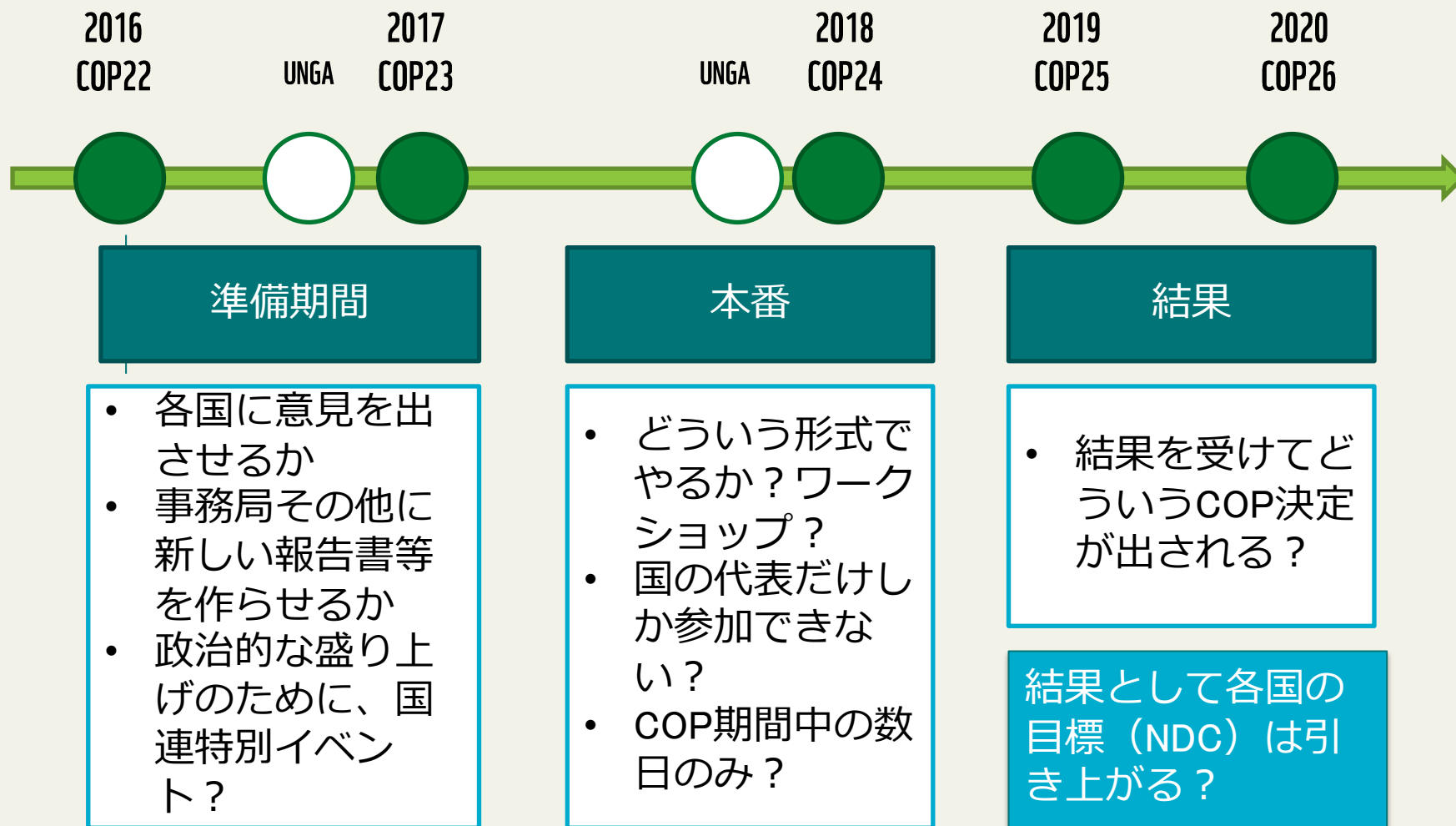
※4月4日までに提出された161のINDC（189カ国をカバー）

- ▶ 国連気候変動枠組条約（UNFCCC）事務局が、COP21決定を受けて、昨年の「統合報告書」をアップデート。
- ▶ 現在の各国の2025／2030年目標では、「2°C」は不可能にはならないものの、強化しなければ達成は厳しい、という結論。

5年ごとの見直しによる強化



「促進的対話」の論点



➡ 2023年からのグローバル・ストックテイクの基礎に + 緩和意外の分野も

2020年前の野心

－ 野心引き上げの鍵はここに？

2020年までの野心の引き上げ：3つの舞台

Global Climate Action

(※以前はLima Paris Action Agendaと呼ばれていた)

政治的な雰囲気作り

「チャンピオン」という役目に任命された2人がハイレベル会合を差配。テーマ毎の対話の開催も。

促進的対話

(※2018年の促進的対話とは別)

資金支援等も含む包括的な見直し

元々は、2020年目標への削減目標や資金支援のあり方も含めて議論すべき場として提案されたが・・・？

TEMs (専門家会合)

(Technical Examination Process)

個別の事例や課題の共有

今回から緩和だけでなく適応についても開催される。



これからもご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます

<http://www.wwf.or.jp/join/>
<http://shop.wwf.or.jp>